

『時と場所をつなぐビーズ』開催報告

平成30年11月25日に岡山市立オリент美術館において、「時と場所をつなぐビーズ」が開催されました（主催：岡山市立オリент美術館、千里文化財団、及び北東アジア地域研究国立民族学博物館拠点）。一般参加者が62名に達しました。

本拠点の代表である池谷和信・国立民族学博物館教授が「素材から見たビーズの道」と題して世界各地のビーズについて解説をした後、四角隆二・岡山市立オリент美術館学芸員は、「古代オリエンツのガラスの道」と題し、人口素材としてのガラスを石と比較しながら、着色という視点から人類の色彩への欲求を浮き彫りにしました。また、ビーズ製作の会社であるトーホー株式会社の坂憲一氏は現代のビーズの製法を紹介しながら、消費地や用途について解説をしていただきました。その後、3氏によるギャラリー・トークも行われ、人類の多様なニーズを、実際に展示品を見ながら体感できる機会となりました。

